

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	林 憲吾
所属機関	金沢大学消化管外科
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	EAES 2025 (欧州内視鏡外科学会)
渡航期間	自 2025/06/16 至 2025/06/21
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	Complete Mesocolic Excision (CME) impacts survival only for stage III right-sided colon cancer: a systematic review and meta-analysis
研究成果	
<p>本研究では、右側結腸癌に対する Complete Mesocolic Excision (CME) の有効性を検証するため、イタリアのトリノ大学病院の外科医らと共に、最新の文献を対象としたシステマティックレビューおよびメタアナリシスを実施した。CME は従来の手術と比べて根治性が高く、局所再発を抑制しうる可能性があるが、その有用性は未だ議論が多い。本研究では、計 22 本の論文および 7 本の学会抄録、総計 8088 症例を対象に解析を行い、3 年無再発生存率 (DFS) および全生存率 (OS)、再発率、術後合併症、手術時間、入院期間などを比較検討した。</p> <p>その結果、CME 群は非 CME 群に比べて 3 年 DFS・OS、局所および全身再発率、入院期間の短縮において有意に優れていたが、血管損傷のリスクが高く、手術時間は延長する傾向がみられた。特に注目すべきは、CME の生存率向上効果がステージ III 症例に限られていた点であり、今後の術式選択において重要な示唆を与える結果となった。</p> <p>この成果を、欧州内視鏡外科学会 (EAES 2025) にて発表する機会を得たことは、極めて意義深い。EAES は内視鏡外科の分野において世界的に権威ある学会であり、欧州の外科医や研究者と直接議論し、フィードバックを得ることで、本研究の国際的価値と臨床的応用可能性をさらに高める契機となると確信している。その他、ヨーロッパの様々な国から来た医師らと意見交換をおこなうことで、今回の研究のみならず、広くヨーロッパの知見が得られ、非常に有意義な時間となった。</p> <p>最後に、今回の国際学会発表にあたり、貴財団のご支援を賜りましたことに心より感謝申し上げます。今後も臨床と研究の両面から、がん治療の発展に貢献してまいります。</p>	

